北海道医師会役員

退任のご挨拶

北海道医師会副会長を退任して

前副会長
小　熊　　豊

このたび6月15日をもって北海道医師会副会長を退任致しました。在任中、様々なご支援をいただき、心からお礼申し上げます。忙しくて大変な時もありましたが、非常に勉強になる日々でした。道医、日医の北海道、日本における重要な役割を認識するとともに、関係者の方々が、日々大変努力され、研鑽を積まれていることに、驚き、感嘆しながら毎日を過ごしておりました。改めまして関係者の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

私自身は地方の自治体病院に長く勤務し、道医に入る前は、道医・日医は診療所の先生方の集団で、病院団体の意見と反する立場の親玉だと考えておりました。長瀬会長から、道医への認識が誤っていること、中に入って活動すると医師会の役割、苦悩がよく解るとお誘いいただき、副会長という重責に就かせていただきました。所属する立場によって主義・主張が異なるのは当たり前ですが、道医は様々な立場の医師、団体を包含し、それぞれの意見を尊重しつつ、北海道の医療政策に真剣に取り組んでおり、日医は国レベルで活動していることを身をもって実感致しました。今、私は全国自治体病院協議会という公立病院の立場で、国の検討会、懇談会などで日医の先生方と話し合うことがありますが、諸先生の医療への真剣な想いが伝わってきて、道医での活動の賜物と感じています。

北海道には３つの医大しかなく、広大な土地に小都市が散在するという医療政策上の問題を抱えています。札幌への一極集中が進み、地方の疲弊は進み、医療提供体制の維持に苦しんでいます。また医療は今、未曾有の大変革期を迎えています。道医は、道保健福祉部と一体となって北海道の医療体制の構築、在り方を検討してきました。今後も道医が様々な立場の医療関係者の先頭に立ち、今まで以上に北海道の医療のあるべき姿を追求し、成果を上げられることを期待しています。６年間、有難うございました。

お世話になりました

前常任理事
後　藤　　聰

６年間ありがとうございました。なんとか勤め上げてほっとした気分と何か一抹の寂しさを味わっております。

旭川赤十字病院の院長を定年退職して、常勤嘱託医として、再雇用されましたが、やはり少し暇を覚えておりました。そこに、北海道医師会の常任理事のお誘いがかかりました。もともと、医師会活動は旭川市医師会の副会長等も10年間くらいは従事して無縁ではありませんでした。

常任理事としての、私の役割は地域保健部が主体でしたが、抱えている範囲が多岐にわたり、結構内容も深い部門でした。糖尿病、うつ病関係の講演会の司会等々で全道を回る機会も多くありました。移動理事会、勤務医懇談会等でも、全道の多くの会員の先生方とお話をいたしました。

道医師会の常任理事としての活動は大いに興味もあり楽しみました。ただ、私の住んでいる旭川と札幌との距離がだんだん辛いと感じるようになってきました。夏はまだ良いのですが、冬のJRでの往復は大変でした。電車に乗るときにはもう暗く、帰りの電車が確実に動くという保証もありません。幸い私は電車が途中で止まってしまい、車中泊などという経験はしないで済みましたが、いつでもその可能性はあるわけです。極端に忙しいときには週５日連続して札幌往復などということもありました。

ですが、今となってはそれらも楽しい思い出です。本当は、もう一期くらい頑張れたのではないだろうかなどと自問しています。

これも、会員の諸先生、仲間の役員そうして、優秀な事務職員に支えられたお陰です。ありがとうございました。今後は一会員として、北海道医師会の諸活動に協力を惜しまないつもりであります。

北海道医師会 理事退任に際して

前理事
野　呂　英　行

早いもので、北海道医師会理事に選出され２年が経ち、６月に退任となりました。この間、郡市会長として、道医理事としての実績はというと、意気込み通りとはいかず忸怩たる思いの反面、無事に２年間職責を終えた安堵感も。というのも、とみに体力の衰えを思い知ることが増えたのに加え、高校の同級生がふたり、中学の同期の道議や市議など、同年齢の友人が相次いで急逝し、お互いの親の時とは違う何か重いものを分かち合うような葬儀が続いたせいもあります。

更に記憶に大きいのが相次いだ災害です。平成29年７月に40人の死者が出た九州北部豪雨に続き、９月には史上初、台風18号が日本本土（九州・四国・本州・本道）すべてに上陸。それが前触れだったかのように翌30年７月には九州北部大豪雨、更に関西空港を閉鎖に追い込んだ台風21号が、９月４日本道へ暴風雨をもたらし、２日後には胆振東部地震が発生、41名もの死者、全道ブラックアウトという我が国未曾有の事態となりました。この２年間で、幾度も「記録的」という文字を目にし、その都度、尊い命が失われました。自然災害のみならず、この７月には京都で、35名もの前途ある若者たちが、暴漢の放火によって一瞬にして未来を奪われるなど、悲惨な事件、事故が今も相次いでいます。

幸い、私たちは平和な地で、ひとりひとりの命と健康を守る為、最善を尽くすべく目の前の診療治療に集中できますが、狭い日本の中でさえ、至る所で多くの無垢の人命が奪われ、脆く、幼い命や高齢者が、守るべき手によって虐げられている現実に慄然とします。驚きや憤りが麻痺さえしつつある状況を前にひとりの医師として、親として、ひととしてまだまだ為すべき役割があると自らを鼓舞し日々の診療に、施設と保育園の運営に、一層真摯に向き合う責任を痛切に感じます。

理事退任ご挨拶

前理事
千　葉　　茂

2014年（平成26年）６月15日から５年間、旭川医科大学医師会の代表として北海道医師会理事を務めさせていただきましたが、来春に旭川医科大学定年の節目を迎えるため、北海道医師会理事を退任させていただくことになりました。長い間、本会会長の長瀬　清先生はじめ、役員の諸先生、事務局スタッフの皆様からあたたかいご指導ご助言をいただきました。ここに、衷心より感謝申し上げます。また、私は昨年７月に第43回日本睡眠学会を主催させていただきましたが、その際には道医師会から多大なご理解ご協力を賜り、誠に有り難うございました。

私は、1979年（昭和54年）、旭川医大の第一期生として卒業いたしました。卒業後は、母校の精神医学教室に入局するとともに大学院に進学しました。以後、脳波研究（睡眠障害やてんかん）に取り組むとともに、世界的に有名な医師・脳科学者であるJuhn A. Wada教授（カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学、北大精神科同門会員）のもとに留学する機会にも恵まれました。そして、1997年（平成９年）に母校の精神医学講座の教授に就任してから、早22年が経ちます。

大学人としての経歴が長い私にとって、北海道医師会の理事としての仕事は不慣れではございましたが、実に刺激的で大いに勉強させていただきました。当初は、理事会の配付資料の多さに驚かされましたが、その資料の内容は、例えば国民に十分な医療を提供するための現状分析や実施計画案など重要なものばかりでした。理事会での議論の視点は多岐にわたり、時には北海道JR路線図の将来像や行政・経済の動向などにも及びます。そこには、医師の利益を追求する狭い考えなど微塵もなく、社会の変化の中で国民によい医療を提供する医師会の真摯な姿勢が貫かれており、深く感銘いたしました。

さて、昨今、日本医師会では「医師の働き方改革」の議論が活発化しています。医師の過重労働の解決には、勤務時間の短縮につながるような時間外勤務の要因分析と対策、救急医療体制の見直し、病診連携の促進などが重要と思われます。しかし、喫緊の対策として、まずはご自身の睡眠時間を確保していただきたいと存じます。私どもが実施した医師の睡眠習慣の調査によれば、医師の64％が睡眠障害（とくに睡眠不足）を有しております。

睡眠不足が認知症や生活習慣病のリスクを高めることが明らかになっている現在、国民の健康を守るために働いている医師の皆様こそ、快眠によって健康を維持・増進していただきますよう切にお願い申し上げます。

結びに、今後も長瀬　清　会長を中心として北海道医師会が益々ご発展なさることを祈念申し上げまして退任ご挨拶にかえさせていただきます。

監事退任ご挨拶

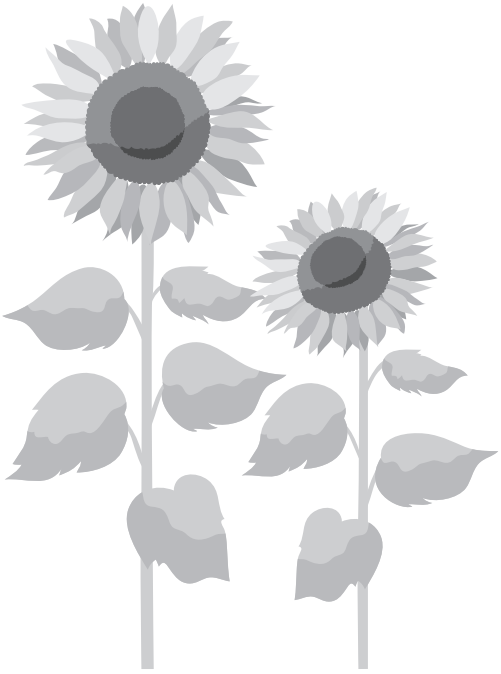
前監事

津　田　哲　哉

2015年６月より北海道医師会監事を、前監事大口正樹先生のあと引き継ぎました。この度２期４年間の短い任期でありましたが、退任することになりました。前任より「北海道医師会への出向は、月２回だけじゃないよ」といわれており、年間40回強の出向は体調維持に辛いものがありました。更に平成30年６月からは、他の会の役職と重なり欠席がちとなり責任ある業務遂行に不安がありました。これ以上は、北海道医師会へご迷惑をおかけするため退任することとしました。この間、藤瀬幸保監事、篠島弘監事には大変お世話になり感謝申し上げます。

北海道医師会・長瀬清会長をはじめ､理事の皆様、事務職の皆様におかれましては、北海道民の医療を守っていただくために今後ともご尽力下さいますことをお願いいたします。

大変お世話になりました。



副議長退任のご挨拶

前副議長

稲　川　　昭

長瀬会長のご推挙により３期６年間、代議員会副議長を務めさせていただきました。就任した年は何十年（？）ぶりかの会長選挙があった年で、私は無投票での信任でしたが何となく緊張感が漂った雰囲気の代議員会であったことが思い出されます。

副議長は概ね代議員会の午後の代表質問・一般質問の議事運営でしたが、最初は代表質問・一般質問の区別も定かでなく、事務局長に教えを乞いながらの運営でした。就任当初は代議員全員への質問事項原稿の配付がなく、資料なしでの討議参加はなかなか理解が進まなかった経験から、議事運営委員会に諮り配付可能となりました。事務局の業務増となりましたが資料に目を通しながら理事者の答弁などを聞いておられる代議員の姿を壇上から見、良かったと思っております。

６年間は室蘭市医師会長も兼務しておりましたので、道医の理事会に参加させていただき役員の皆様からの情報・意見交換など有意義な時間を過ごさせていただきました。医師会は横倉日本医師会会長の下、積極的に行政とかかわり、宇沢弘文先生の“社会的共通資本としての医療”を基本理念とし、国民皆保険制度が持続可能な制度として維持されるよう多くのことを提言し具体化に努力しているように思われます。北海道医師会も日本医師会に協力し北海道の課題に積極的に取り組んでおられます。70歳になり、17年間務めた代議員も退任しますが、今後とも北海道医師会が北海道の医療課題について改善・改革を進めるに当たり代議員会が活発な議論の場となることを祈っております。